

青森県産エダマメの価格動向分析

中 田 嘉 博

(青森県農業研究推進センター)

Analysis of Wholesale Price for Green Soybeans Produced in Aomori Prefecture

Yoshihiro NAKATA

(Aomori Prefectural Agricultural Research Promotion Center)

1 は じ め に

青森県津軽地方には味がよいと評判のエダマメの晩生在来種「毛豆」があるが、青森県畑作園芸試験場では放射線照射により毛豆の早生品種を育成し、早生から晩生までの毛豆の長期出荷が可能となった。

この毛豆シリーズを利用して、中山間地域における地域特産品の直売を中心とした新たなミニ産地づくりの方策を検討することとしているが、経営評価に当たっては、産直だけでなく将来的には市場出荷をも考慮した検討が必要である。このため、県産エダマメの市場流通及び価格動向を分析したので、その概要を報告する。

2 試 験 方 法

園芸作物統計、卸売市場年報 (青森市・八戸市・東京都)、聞き取り調査等により、県産エダマメの生産と市場流通・価格の実態を分析した。

3 試験結果及び考察

(1) 青森県産エダマメの生産・出荷状況

県内における1999年のエダマメ生産は、栽培面積387ha、収穫量2,560 t、出荷量が1,020 t (都道府県別で第15位)である。市町村別出荷量は、田子町が432 tで県全体の42%を占め、東京市場へ集中出荷しているが、その他の市町村の大部分は地元市場へのお荷にとどまっている。

表 1 青森県産エダマメの生産及び市場入荷量 (1999年)

区分 項目	県内市場入荷量 (t, %)					東京 市場	青森県内の生産 出荷状況
	小計	青森	八戸	弘前	その他		
入荷量	374.6	107.9	95.8	132	38.9	7,141	栽培面積 387ha
県産	227.3	58.9	41.4	93	34.0	519	生産量 1,250t
シェア	60.7	54.6	43.2	70.5	87.4	7.3	出荷量 1,020t

県産エダマメの'99年の卸売市場入荷量をみると、県内7市場の合計が227 t (全入荷量385 tの61%)、東京市場が519 t (全入荷量7,141 tの7%)であり、県内市場と東京市場を合わせた県産エダマメの入荷量は746 tとなっている。このように県産エダマメの出荷は東京市場へ50%、県内市場へ20%、残りが直売等を中心とした販売と考えられる。

(2) 県内中央卸売市場のエダマメの動向

1) 青森市中央卸売市場の動向

青森市中央卸売市場における'95年以降のエダマメの年間入荷量は110 t前後で推移し、県産が50~55%、県外産では群馬県と埼玉県がそれぞれ20%を占めている。月別入荷量は、7月が最も多く、次いで8月、9月となっており、7・8月は30 t以上、9月が25 t以上となっている。

県産の時期別シェアは、'99年の場合、7月が13%、8月が59%、9・10月は100%となっているが、6月から8月の県外産は群馬県産と埼玉県産で占められている。

kg当たり年平均価格は305~414円であるが、県産が232~327円、県外産は365~536円と100円~200円の差がある。月平均価格は6月と7月が高く、8月と9月が低くなり、入荷量が少なくなる10月にやや回復する。

表 2 青森市中央卸売市場のエダマメ入荷量・価格の動向

区分 年次・月	入荷量 (t)			kg当たり価格 (円)		
	総数	県産	県外産	平均	県産	県外産
'95~'99年平均	111.1	58.8	52.9	350	273	442
'99年計	107.9	58.9	40.9	321	263	391
'99年 月別	7月	34.6	4.4	30.2	401	439
	8月	29.7	17.6	12.1	241	201
	9月	24.7	24.7	—	270	270
	10月	9.6	9.6	—	204	204

2) 八戸市中央卸売市場の動向

八戸市中央卸売市場における'95年以降のエダマメの年間入荷量は93~100 tの間で推移している。このうち県産は40%を占め、群馬県と岩手県がそれぞれ25~22%程度を占めている。月別入荷量は、8月が30 t以上と最も多く、次いで9月 (25 t程度)、7月 (20 t程度) となっており、産地別では6・7月の群馬県が80%、8月は本県と岩手県が各45%、9月は本県の85%などとなっている。

表 3 八戸市中央卸売市場のエダマメ入荷量・価格の動向

区分 年次・月	入荷量 (t)			kg当たり価格 (円)		
	総数	県産	県外産	平均	県産	県外産
'95~'99年平均	96.0	39.1	56.9	360	211	465
'99年計	95.8	41.4	54.4	306	185	398
'99年 月別	7月	22.8	1.3	21.5	352	355
	8月	32.3	15.0	17.3	285	221
	9月	24.6	21.1	3.5	175	155
	10月	4.2	4.0	0.2	157	156

kg当たり年平均価格は306～405円で推移しているが、'95年から'99年の県産と県外産の平均価格を比較すると、県産が211円に対し県外産が465円と200円以上の差がある。月平均価格は、青森市場と同様の動きを示している。

3) 青森・八戸両市場の比較

青森市・八戸市両市場とも、県外産価格が県産価格をkg当たり100～200円上回っている。この要因は、出荷時期による価格の違いのほかに、出荷形態、すなわち、産地化されていない地場市場向け出荷の違いによる影響が反映されていると考えられる。

また、青森市場と八戸市場の県内外産の年平均価格を比較すると、'98年までは八戸市が高かったが'99年以降は青森市場の方が高く推移している。県産の平均価格は青森市場の方が高く推移している。

(3) 東京都中央卸売市場の県産エダマメの動向

東京市場における県産エダマメは、'95年以降の年間入荷量が372～519tで、シェアは8月10%、9月26%と高い。入荷量の大半が田子町農協のものである。出荷時期は7月下旬から10月上旬であるが、ピークは8月上旬から9月下旬までで、この間、毎旬50t以上が入荷されている。

県産のkg当たり年平均価格は、'95年以降は620円から699円（'95～'99年の平均価格は657円）で推移し、市場全体の価格と比較すると'97年以降は県産は若干低めである。

表4 東京都中央卸売市場のエダマメ入荷量・価格の動向

区分		入荷量 (t)			kg当たり価格 (円)		
		総数	県産	県外産	平均	県産	県外産
'95～'99年平均		7,121	432.1	6,689	684	657	686
'99年計		7,141	518.7	6,622	660	620	663
'99年 月別	7月	2,033	14.9	2,018	597	733	596
	8月	1,969	199.6	1,769	617	674	611
	9月	1,002	257.1	745	668	582	698
	10月	318	46.4	272	556	563	555

しかし、県産の出荷ピークの8月～9月は県産の価格の方が高く推移している。

(4) 青森市場と東京市場の価格比較

青森市場と東京市場の市場価格の相関を'98年と'99年の旬別価格で検討した結果、極めて相関が高かった。

青森市場では群馬県産と埼玉県産が年間入荷量の約45%、7月下旬までは80%のシェアを占める。両県産地では東京市場並み価格の強い要望があり、前半は東京市場の相場にかなり影響され、後半は地元の需要動向の影響を受けるも

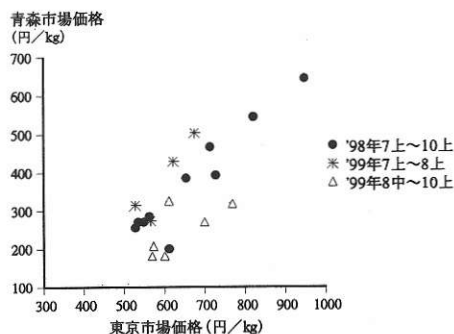


図1 青森市場と東京市場のエダマメ旬別価格の比較

のとみられるが、東京市場の相場と関連しながら価格が形成されていると考えられる。

4 ま と め

県内の青森市と八戸市の2中央卸売市場における県産と県外産の価格は、いずれも県産の方が県外産より低いものになっている。この要因として二つ考えられる。

一つは、県外産は県産が出回る前から入荷するため価格が高いという出荷時期による価格差と、県外産地の価格要望（指し値）の影響が強く反映されている。

もう一つは、県内市場向けのエダマメ生産がいわゆる地場市場向けということである。県内市場関係者は、県産エダマメの価格が低いことに対して以下のことを指摘している。

- ①産地化されていないので栽培技術が不統一で、品質にばらつきが多い。
- ②小口の個人出荷のため、量販店取引に不向きである。
- ③出荷容器が再利用であるなど、個々バラバラである。
- ④出荷に継続性が必要である。

一方、県外産については、容器、品質、品種を統一し、数量も比較的多く継続出荷されており、量販店等の引き合いが高いことなど産地化の有利性をあげている。

中山間地域における特産エダマメのミニ産地育成に当たって、産直中心の販売は数量が限られ、ミニ産地といえども地元市場への出荷が重要になると考えられる。地場流通のメリットは新鮮な農産物の供給や流通コストの節減等であるが、生産者グループや農協を中心とし、早生品種を取り入れた出荷の長期化と継続性、ロット、品種・規格・包装の統一を図るなど、地場市場向けの産地づくりが重要である。